

# 大分大学医学部附属病院 臨床腎臓 専門修練プログラム

## 1. プログラムの概略・特徴

腎臓専門医として原発性・続発性の腎疾患の初期治療から末期腎不全の腎代替療法までの領域全てについての知識、技術の習得を目標とする。

加えて、腎臓病の特殊病態についての基礎的・臨床研究、腎代替療法の開発・基礎研究を行うことにより、腎臓病の研究者としての造詣も深める。

2年間の卒後臨床研修を修了したのち3年の後期研修により日本内科学会認定医取得したのち、日本透析医学会専門医取得、日本腎臓学会専門医を取得する。腎臓病と心血管疾患における強い関連が認められており、この心腎関連病態の診療についても習熟する。

## 2. 研修目標

### 【一般目標】

エビデンスに基づいた腎臓病診療を習得する。腎臓病診療においては腎不全専門看護師、臨床工学技師、管理栄養士等との相互協力によるチーム医療が不可欠であり、そのチームリーダーとなりうる資質をみがく。

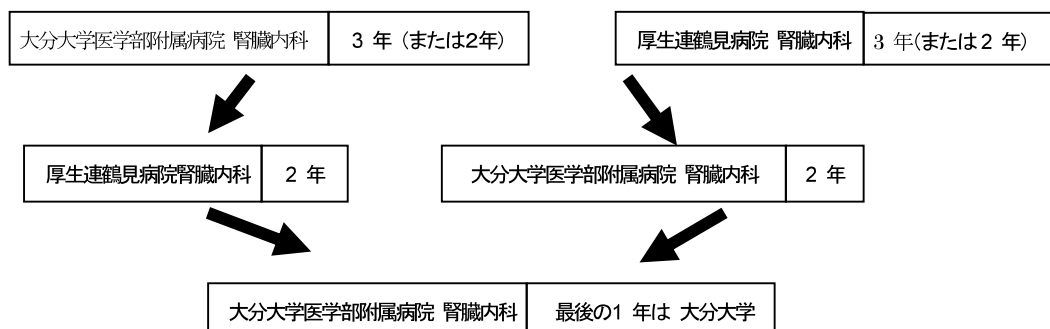
### 【行動目標】

日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医の資格要件を満たすため、多彩な症例を受け持ち、日本腎臓学学会および日本透析医学会で定められた所定の研修カリキュラムを修得する。また学会発表2つ以上、腎臓病領域の論文1つ以上（日本透析医学会専門医は1つ以上）を目標とする。

1. 腎臓疾患の適切な診断、治療計画
2. 腎機能検査の判定、  
Chronic Kidney Disease (CKD)、Acute Kidney Injury (AKI) でのRisk factorの把握
3. 検査手技：腎生検、
4. 治療手技：透析用カテーテル挿入、腹膜透析カテーテル留置、内シヤント増設
5. 腎臓疾患における遺伝子検査の理解
6. EBMに応じた腎臓疾患薬物療法の選択
7. ステロイド薬・免疫抑制薬使用時の感染管理・合併症の管理
8. 慢性透析患者の管理（慢性維持透析療法への習熟）
9. 急性腎不全患者の管理（急性血液浄化法の習熟）
10. 臨床研究の理解と実施
11. 倫理的配慮についての理解
12. 学会発表、論文作成
13. 上級医師として研修医を指導する能力

### 3. 研修スケジュール

3年目～凡そ10年目



	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
A	大学病院腎臓内科		厚生連鶴見病院腎臓内科			大学病院腎臓内科
B	厚生連鶴見病院腎臓内科		大学病院腎臓内科			
C	大学病院腎臓内科			厚生連鶴見病院腎臓内科		大学病院腎臓内科
D	厚生連鶴見病院腎臓内科			大学病院腎臓内科		

### 4. 評価

それぞれの現場での上級医師による評価に応じて指導を行っていく。研修中は各研修施設での研修評価を行う。目標レベルに到達したかどうかポートフォリオを使用しフィードバックすることにより形成的評価とプログラムの検証を行い、高いレベルでの研修を行なう。

また日本腎臓学会および日本透析医学会の専門医試験に合格し、資格認定を取得する。

### 5. 募集人員 5人

### 6. 実施責任者 友 雅司

### 7. 指導責任者 門田 淳一

### 8. 関連施設、学会認定状況

大分大学医学部附属病院: 日本腎臓学会認定医制度研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設

日本腎臓学会指導医: 1名、日本腎臓学会専門医: 1名

日本透析医学会指導医: 1名、日本透析医学会専門医: 2名

大分県厚生連鶴見病院: 日本腎臓学会認定医制度研修施設、日本透析医学会専門医制度教育関連施設

日本腎臓学会指導医: 1名、日本腎臓学会専門医: 1名

日本透析医学会指導医: 1名、日本透析医学会専門医: 1名、

日本アフエレーシス学会専門医: 1名

### 9. その他

研修領域の決定は本人とメンター（研修実施責任者）が相談の上、本人の意向を重視して決定する。

後期研修が有効に行われるには、安定した収入の確保が不可欠であり、後期研修期間中は大学病院より支給される給与に加えて、可能な限り外来業務を中心としたアルバイトを、個々の臨床経験・能力に則して医局で責任をもって確保し、安定した収入を保障する。

### 10. 連絡先 大分大学医学部 総合内科学第二講座 友 雅司: Tel: 097-586-5804

Fax: 097-549-4245 E-mail: tomo@oita-u.ac.jp